

会議名	平成 29 年度 第 1 回西尾市子ども読書推進委員会
日 時	平成 29 年 4 月 20 日 (木) 10:00～11:00
場 所	西尾市役所 41 会議室
出席者 【敬称略】	委員長 尾崎 隆爾 副委員長 岩瀬 美貴徳 委員 木下直人 (代理：笠原美保)、山崎章雄、颯田義晴、島崎広高、 森木かよ子、磯貝真澄、杉浦千代子、今井聡子 事務局 原田 依子、生田 美恵
配布資料	・委員会次第 ・出席者名簿 ・西尾市子ども読書活動推進計画 (第 3 次) パブリックコメント回答 ・西尾市子ども読書活動推進計画 (第 3 次) 修正案 ・学校図書館法

委員会の中で出されたことは以下のとおり。

1 あいさつ

尾崎委員長あいさつ

2 議題

(1) 西尾市子ども読書活動推進計画 (第 3 次) について

事務局 (説明)

西尾市子ども読書活動推進計画 (第 3 次) のパブリックコメントの実施により提出された意見について、その内容及び回答について説明

■提出方法

Email 1 件、郵送 1 件、持参 8 件

■提出意見の内容

10 人の方から 32 件の意見をいただいた。項目別にみると、第 1 章 財政上の措置に関すること [意見 0 件、質問 1 件]、第 2 章 基本方針 2 子どもの読書習慣の確立・読書指導の充実 [意見 21 件]、第 3 章 子ども読書活動の推進の施策体系とその達成度 [意見 6 件]、参考資料 用語説明 [意見 2 件]、その他計画(案)に記載のない項目 [意見 1 件、質問 1 件] でした。

意見の内容は、学校図書館に関すること 7 件、学校司書に関すること 12 件、司書教諭に関すること 7 件、学校に関すること 5 件。

■計画(案)の修正について、

パブリックコメントの意見を受けての修正は、学校図書館の役割についての記載について、学習センター及び情報センター機能について追加。学校図書館に関わる人の研修について、「育成」及び「学校図書館指導員の指導・助言」を追加。学校司書に関する用語説明については、改正のあった学校図書館法第 6 条第 1 項を引用。学校図書館指導員の用語説明を「教育委員会から任命

された教科指導員でその業務の内容を追加した。

なお、学校司書や学校図書館に関して意見が多かったが、基本的な考え方として、子ども読書活動の推進計画という大きなくりであり、学校図書館に関する個別計画ではないこと。また、教科の指導にまで踏み込むべきではないと考えた。

■計画(案)以外の質問への回答

交付税に関すること及び計画策定に関する事であり、計画(案)とは関係はないが、子ども読書に関わる事であるので回答をすることとした。

質疑応答

委員（質問）

国の交付税措置への質問だが、算定方法は複雑であるがどのようなものであるか、その確認は。

→事務局（回答）

執行額は、庶務課及び学校教育課での実績値であります。交付税は財政課から助言をいただいているので概算値で提示したい。市としては、国からの交付税は図書に関わることにしっかり使っていることを質問者にお示ししたい。

委員（意見）

実際の経費であるが、細かく計上すればまだまだある。

委員（意見）

実績額の内容は、学校司書雇用、図書購入費、庶務課学校図書館の空調整備や床の張替及び新聞等の経費などの積み上げ値です

交付税とは基準財政需要額で市が使うお金の合計との基準財政収入額との差額であり補助金等とは性質が違うので間違えないように。なお、今回のご質問の件は、基準財政需要額のことではないかと推測します。

→事務局（回答）

概算値であるので、千円単位で回答します。

委員（意見）

学校図書館指導員など人的確保が難しい。図書館部会なども担当者が固定化してしまうことや、反面、個々の職員配置などの事情もあり指導の継続性が保たれないなどの問題もある。学校図書館指導員も自分の担当教科を持ちながらの指導員であるため大変な職である。司書教諭も学校図書館指導員も育成していくことが重要である。

委員（意見）

学校司書のいる学校と配置のない学校では子どもたちの状態がまったく違う。いる学校は、いきいきし、学校図書室に活気がみなぎっているのので、学校図書館に司書は必要である。

委員（意見）

学校司書の意見が多いが、必要性は理解できる。学校図書室に活気がみなぎるので、司書を増やして欲しいという意見は理解できる。しかし、人材確保が大変であることも理解できる。

目標を全校配置としていない理由としては、①今回の改定もそうだが、実現可能な計画を考えているからである。②現在の西尾市の学校司書は非常に有能である。そこからの判断として

だが、複数の学校をお任せできる。③図書活動においても、子どもたちが主体的な活動ができるように育てていきたい。計画(案)の目標でよい。

委員（意見）

目標の達成度の右端の担当課と協力課の記載は必要であるか。担当課を明確に表せば責任の所在がはっきりとすると思う。

委員（意見）

施策とその達成度をすべて記載するので文字が多く表が見にくいと思う。施策も実際には、複数課にまたがる内容もあるので、わかりやすい表にしたほうがよいのでは。

委員（意見）

担当課を明確に表すと責任の所在がはっきりとする利点はあるが、担当課のみが実施する施策でなく、それぞれの課が自分のこととし考え、教育委員会6課、子ども読書に関係する全課で協力して行っていくという考えであるので記載はなしでよい。

委員（意見）

担当課、協力課のみが行う事業でなく、子ども読書推進は、西尾市、県、国全体が進め大切に子どもを育てていく施策であるから、表記するかしないかでありどちらでもよい。事業の進捗状況等は、推進委員会が把握する。

委員（意見）

用語の説明の箇所で、ふれあいセンターのシステムは未導入と記載がある。予約受け取り館は3か所あるが、施策とその達成度のシステムの導入目標は2か所である。まぎらわしいのではないか。

→事務局（回答）

現在の場所をすべてシステムを導入していくのではなく、これから、費用対効果も含めて検討していくので、用語説明の記載は現在の状況とした。

委員（意見）

用語の説明は、ヤングアダルトなどの文言の記載が第3次はなくなっている。

→事務局（回答）

ヤングアダルトはわかりにくい用語であるので、本文中も中高生向き図書としたため、用語説明からははずした。

委員（意見）

用語説明は、ページ数などが変わってしまうがページの脚注として用語説明を入れた方が読みやすいと思う。重点項目なども強調したほうがよいと思うのでよくわかるような記載したほうがよい。

→事務局（回答）

体裁は変わってしまうが、読みやすいものに修正します。

委員（意見）

平成34年という元号もあるかないかもしれない。期間は西暦がよいのかそのままでよいのか。やはり、西暦はわかりにくいのでそのままでよいのでは。

(2) その他

平成 28 年度の実績調査の依頼及び次回の開催時期（11 月頃に予定）の連絡

委員長より

「毎月 23 日は読書の日」はサンジョルディの日にちなんだ読書に親しむ日である。今週末、西尾市の図書館も 4 月 23 日は西尾っ子読書フェスティバルを開催し、藤田浩子氏にもお越しいただき子ども読書を推進していく。最近の母親の中で、子育てのおもちゃとしてスマホを子どもにあたえたりしている。パソコンやスマホなどデジタル化がすすみ少し心配である。デジタル画像でなく、文字（本などを読むこと）からはいつてくる情報を読み取り考える。何事も、全体をみてものごとを進めていくとよいと思う。

委員長により平成 29 年度第 1 回子ども読書推進委員会を閉会した。

以上